

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671600258
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム亀岡千代川
所在地	〒621-0043 京都府亀岡市千代川町小林北ノ田13-29 (電話) 0771-29-2110

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年11月26日

## 【情報提供票より】(H19年 7月 2日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 20,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,666 円	

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	0 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会丸田町病院 さとう医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った閑静な住宅街に立地し、民家を改装し使用されている2階建てのグループホームです。外見は、施設の看板以外は他の民家と変わらないため、施設ではなく我が家として地域に溶け込んでいます。医療、介護、健康保険、教育研究の総合ネットワークとして幅広い地域で事業展開をしている大型法人を母体にもっているため、質の高いケアサービスが組織として提供できるシステムが整っています。医療面においても法人の訪問看護ステーションとの連携のもと24時間体制で対応でき、ターミナルケアも可能となっています。

入居者は毎日買い物や散歩、子供達とのふれあい、ご近所付き合いなど在宅の方と同じように過ごされながら、認知症における機能低下の維持・向上に職員と共に取り組まれています。また、日々の生活を通じて地域の方とのコミュニケーションが図れ、徐々に応援者を増やしながらか地域に密着したケアを実践されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、理念を明確にし、誰にでもわかるように、ホーム内の雰囲気や合うような方法で掲示されることでした。今回、法人理念が玄関に掲示されています。今後グループホーム独自の理念をつくられ、掲示されることが期待されます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を客観的視点からの気付きとして捉え、法人全体の課題として前向きに受け止められています。自己評価に関しては、管理者が主に実施されていますが、内容については結果と共に会議にて全員に周知し、取り組んでいかれる予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、市の担当者、地域包括、老人会代表や民生委員が出席し、地域の防災訓練や、季節行事などに積極的に取り組まれています。また、老人会の方々と温泉旅行の計画もあり、日常生活での関わりと、運営推進会議での積極的な働きかけが地域の理解につながってきています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の意見や苦情などは、適切な方法で対応する仕組みが整っており、面会時に気軽に意見や苦情を受けることができる信頼関係ができています。しかし、日常的故に記録に残されていない部分も見受けられました。今後は、家族会などの設立も検討され、今以上に意見を反映できるように取り組まれるよう期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として受け入れられるよう、買い物や散歩、玄関先でのあいさつなどのコミュニケーションを大切に、こつこつと積み上げてこられた努力が実り、老人会との交流や地域の夏祭りへの参加など現在の良い関係を築く結果となっています。今後更に理解と連携を深めるために夜間の避難訓練を地域で実施するなどの計画を進められる事も是非取り組まれてははいかがでしょうか。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として掲げてはいないが、地域の一員として普通の生活を送る中で子供から成人に至るまで関わるすべての方々に認知症に対する理解と連携を持っていただくことを目指して実践している。	○	地域の中で暮らし続けることを支えるサービスとしてすでに実践されている事を事業所独自の理念として明文化し、ホームになじむ掲示方法で明示されることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の玄関先でのあいさつや、買い物や散歩に出かけたときなどのふれあいを通して普通の暮らしの中でお互いに理解と連携を育てていけるよう個々のケアプランにも反映させ、日々努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々のコミュニケーションだけではなく、地域の一員として、自治会に加入することで町内の夏祭りや運動会に参加したり、老人会の行事にも定期的に参加するなど徐々に交流が深まってきている。	○	今後は、運営推進会議に小・中学校の先生や老人会の方々に出席していただくなどして、子供達や地域のお仲間とより深い交流ができる機会を検討されてはいかがでしょうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで現状を客観的に見ることができ、更なる改善につながるよう参考にし、指摘のあった事項については話し合われています。	○	今回の自己評価表は管理者が作成されていますが、少しでも時間を工夫し、職員全員で作成されると、色々な意見が出され職員の思いや、改善する点など新たな気づきにつながり、是非全員で作成されるとが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には行政や、地域包括支援センターの相談員等が参加し、定期的の実施されており、地域の方との防災訓練や、レクリエーションへの参加など具体的な取り組みにつなげている。		

洛和グループホーム亀岡千代川

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の高齢福祉課が主催する勉強会や、ケアマネ連絡会議などに参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>勉強会や会議に留まらず、市の担当者に地域やホームが主催する催しなどにも参加していただき、地域密着型サービス事業推進の最前線である立場を理解してもらい、強い連携の絆ができるよう積極的な働きかけが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月家族宛に預かり金管理に関する報告と共に、利用者の個々の状況について文書にて報告している。また、面会時に日々のご様子などを報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や不満などについては、行政関係をはじめ、事業所内にも窓口を設け、担当者を明確にし、対処するための体制や手順などについて明文化されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の業務がストレスにならないよう法人としてサポートセンターが設けられている。また、年2回の面接にて悩みや異動の希望などを聞く機会が設けられている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>非常勤職員を含め、各段階に応じたフォローアップ研修を実施している。外部研修についても内容に応じて推奨している。また、ケアマネや介護福祉士などの受験に対してシフトの配慮も行っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>亀岡市主催のケアマネ連絡会や市内5グループホームが参加する会議などに参加し、情報交換や交流をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が馴染めるよう入居の前に家族と共に来所されることを支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は全員が女性であるため、買い物や食事づくり、洗濯たたみなど職員と共に行っている。共に生活することで入居者のさりげない心遣いや、他人を思いやる優しい言葉掛けに触れ、癒されながら日々を送っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランはセンター方式を導入し、本人の意向をできる限り把握するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、カンファレンス時に作成し、家族の意向を長期目標の中に反映させている。	○	家族や本人の意見など、実際に把握しているが、記録として記載する箇所がないので、家族の意見が見える形(様式)にする事が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、おおよそ3ヶ月ごとに見直され、更新されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望に応じた個別の外出計画(墓参り・外食・歌舞伎の鑑賞など)を立て、実行している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は施設の近くにある医院に依頼しているが、専門医として同グループの病院がバックアップする体制になっている。他に訪問歯科(口腔ケアも含む)や、訪問看護とも連携体制がある。希望時は、入居前のかかりつけ医への受診も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来まだ1度もケースがないが、法人として方針が定められており入居時に話し合いを行っている。また、実践に向けて終末期のケア等について主治医よりアドバイスを受けている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が個人に対し、不適切な言葉かけや対応をした場合は、その場で注意・指導している。また、記録等の個人情報については、事務所(施錠可)にて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間など本人のペースを尊重した支援をおこなっている。また、毎日の散歩のコースや、食事の献立、飲み物の希望など、日々の生活の中に個々に選択していただく機会が多くあり、職員は意識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の場面に関しては献立・買い物・調理・盛り付け・食事・後片付け等において入居者と共に楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日8:30～19:00の範囲で可能であり、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が得意な方には家事、踊りが好きな方には踊りのビデオを見ていただくなど、個々の得意な分野が日常生活に取り入れられるようにプランに反映し実践している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買い物を兼ねてのドライブ、毎月お一日の神社参拝、紅葉狩りなど外出の機会は多く、日々支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りが可能である時間帯については、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	入居者の安全を優先して玄関に施錠することもあるようですが、できる限り施錠しなくても良い方向で検討されることが望まれる。また、どうしても施錠が必要な場合は、家族の同意を得ることが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防との避難訓練及び防災訓練は定期的実施している。地域の老人会にも協力を求め、実施に向けて積極的に働きかけ、理解を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確認は法人のフォーマットに従い記入し、チェックしている。栄養バランスについては、定期的に管理栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、自然光が取り入れられる工夫があり、空気清浄機も設置されていて大変落ち着いた空間となっている。また、家具や、置物等も家庭的であり、玄関先には一息つけるよう椅子を置く配慮があり、棚の上にはめだかも飼育されている。ごく一般的な家庭の雰囲気であり、まったく違和感がないよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、使い慣れた家具やベットを置いている。希望に応じて畳み対応やテレビの設置も可能となっている。		